

### 第3回行政審議会に向けた第2回行政審議会でのご意見等

総合計画骨子（たたき台） ※事務局検討部分を除いたもの

<b>「Ⅱ えべつ未来づくりビジョン」について</b>	
<b>●めざすまちの姿</b>	
P. 11 ） P. 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「①安心して暮らせるまち」、「②活力のあるまち」について、高齢者に対してどういうまちづくりをするのか、もっと踏み込んで表現してはどうか。</li> <li>・江別の産業が活性化して、市民が食いぶちを得て生きていくための意気込みが感じられるような記述を検討してはどうか。</li> <li>・人口減少時代において、総花的なものではなく、今までにはない何かの記述を検討してはどうか。</li> <li>・コンパクトなまちづくりがどういうまちなのかという記述の検討とコンパクトなまちをめざすための裏付けが必要ではないか。</li> <li>・コンパクトなまちづくりは、どこの自治体でも言っているので、江別の魅力を具体化できるような絵を描くことが、今回の総合計画では重要であり、しっかりと決意表明をすべきではないか。</li> <li>・「土地利用の方向性」について、居住する観点からのアピール部分（札幌から近く利便性が高い、コンパクトシティなど）と、周辺部に新しい産業を誘致する戦略的な事業を行うという部分を並べた、2本立ての記述を検討してはどうか。</li> </ul>
<b>●まちづくりの基本方向</b>	
P. 13 ） P. 16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪の文化に関することを検討してはどうか。</li> <li>・「商工業の振興」について、サービス業、ソフト産業を含めた表現を検討してはどうか。</li> <li>・「生涯学習の充実」を考える場合、高齢者の地域活動を守ることも考慮すべきではないか。</li> </ul>
<b>「Ⅲ えべつ未来戦略」について</b>	
<b>●1 ともにつくる協働のまちづくり</b>	
P. 17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「多様な主体が協働で取り組むためのシステム」が具体的にどういうものか、また、大学の行事への市民参加よりも、大学の市民参加の方がはじめにあるべきではないか。</li> </ul>
<b>●2 えべつの将来を創る産業活性化</b>	
P. 17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境に優しい再生可能エネルギーを活用した産業の振興」の他に、家庭の省エネルギー化や産業の省エネルギー化の促進を検討してはどうか。</li> <li>・「地域資源の活用による観光の活性化」の柱立てがどれも同じような内容なので、柱立てを整理してはどうか。</li> </ul>
<b>●その他</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの分野でも人材育成の検討が必要ではないか。</li> </ul>

## 第2回行政審議会でご意見のあった事務局検討事項等

### 総合計画骨子（たたき台）

「Ⅰ 基本的な考え方」について		
●計画の構成		
ページ	ご意見等	事務局対応
P. 2	各部局の「施策展開方針」で毎年度PDCAによる見直しを行うとのことだが、総合計画との整合性のチェックが明示されていない。総合計画ののって進められているかということ、全体的な視点でチェックできる内容を明記してほしい。	外部の視点を含めて検討したい。
P. 2	「施策展開方針」をチェックするのは、議会の役目ではないか。	進ちよく状況を市議会に報告しながら進行していきたい。
P. 2	市の総計で一番難しいのは、「個別計画」をどうはめ込んで、どうチェックしていくか。「個別計画」の事業が総計のどの位置にあたるのか。マトリックスを作った時にできる空白地帯をどうするか。	総合計画に合わせて個別計画も見直していく。個別計画になじまない部分は、「施策展開方針」により実行性を担保したい。
P. 2	「個別計画」の部分に見直しに関する記載をしようか。	図の中で、個別計画の部分に総合計画に合わせた見直しの表現を記載することを検討したい。

「Ⅱ えべつ未来づくりビジョン」について		
●江別市を取り巻く社会動向、江別市の現状		
ページ	ご意見等	事務局対応
P. 5	2行目、「しかし、自治体の財政状況も厳しく、多様な市民ニーズ全てに対応していくことも難しい状況が続いています。」の部分について、財政状況が厳しいから市民対応ができない、と読めてしまう。良い表現がないか。	検討したい。
P. 3 と P. 9	P. 3～P. 5 までが日本全体のマクロの話で、これ以降が江別の話になる。データ間の比較をしやすいように、マクロの部分と江別の現状とで対比しやすいようにしてほしい。全国の人口推移がパーセンテージであるが、江別市の人口推移が実数になっているので、この実数部分にパーセンテージを付けて比較できると良いのではないか。	見直したい。
P. 4	TPP交渉の参加によって、戦略に影響するのではないか。	最新の動向を入れるべきかどうか迷ったが、TPP交渉で今後どうなるか不明なので記載していない。TPP交渉の影響が分かれば、記載内容を検討したい。
●めざすまちの姿		
P. 11	上から4行目「そこに暮らしているすべて市民の幸せになることが」の表現がおかしい。	修正する。

P. 11	①～⑤の記述があり、⑤は、上の①～④を実行するために必要な「協働」ということだが、①～④と⑤は同列にはならないのではないか。「協働」が前文に書かれて、その下に4つのことをやるという表現になるのではないか。「協働」の言葉がよく使われているが、色々な団体が協力していないような印象を受けた。「協働」とは、実際にどういうことを言っているのか。	自治基本条例に同様の記載があるので、前文にきちんと入れることを検討したい。
P. 11	P. 11 の将来都市像（キャッチフレーズ）は、この場で考えるよりも、素案ができた時に市民から公募してはどうか。	（検討）
P. 12	財政的な面では、これまでの総合計画の内容を見れば、どこにお金を配分したかが分かる。それを見ながら個別にお金を積み上げて、将来の計画を立てないと、単なる文言の羅列になるのではないか。	10年後の財政状況を見通すのは困難であり、個別計画や事業を積み上げて、計画を策定すると事業の硬直化を生むことになってしまう。総合計画と財政との整合性がとれるように対応していきたい。
P. 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「土地利用の方向性」でパンチを効かせるということについて、従来の用途地域の指定を大胆に見直すという表現の方が、より具体的になるのではないか。用途地域の総合的な見直しは、他の自治体ではやっていないと思うので、江別で大胆な見直しをできないものか。</li> <li>・ここでは抽象論としておき、後の戦略で強調する部分を述べるという書き方であるのか。</li> <li>・用途地域の見直しを云々というような具体的内容を入れるのではなく、例えば、用途地域等を見直しを図るというような丸めた言葉で表現するように事務局にお任せしたい。</li> </ul>	総合計画では、基本方向を示すということで、「めざすまちの姿」ではある程度抽象的な表現にならざるを得ないと考えている。重点的に取り組む部分は、P. 17 以降の「えべつ未来戦略」の中でまとめている。
P. 12	都市計画の審議会としては、総合計画に載っていれば議論しやすい。	コンパクトシティの捉え方は、自治体によって異なる。都市計画の審議会では、えべつ版のコンパクトなまちを目指しており、「コンパクト」という言葉の使い方を慎重にしたいと考えている。総合計画策定の進行を念頭に置きながら、都市マスの議論の進め方を調整している。具体的な話は、都市マスに記載されるが、総合計画で書ける内容はこれぐらいであると考えている。
P. 11 と P. 12	最終的にどういう表現になるのかをもう一度会議の場に出してほしい。中味が分からない状況で、こうなるとは表現できないと思うので、全部の議論がだいたい終了した時に、強調すべき部分をみんなで再度話し合ったらよいのではないか。この部分は、極めて重要な部分であると思う。	第3、4回と会議を進めていき、その後でフィードバックしたい。

●まちづくりの基本方向		
P. 14	「都市型農業の推進」でも農業の就業人口を増やすことも考えられるのではないかと。商工業だけでなく、他の産業分野でも「就業環境の充実」を考慮していただきたい。	(了承)
P. 14	「都市型農業の推進」で「都市型農業」と言っているが、「都市」にこだわりがあるのだろうか。	5次総計でも同じ表現であり、P. 8 に主要作物の推移のグラフを載せており、大消費地に隣接している特色ある農業をここでは「都市型農業」と考えている。
P. 14	P. 17 の「農業を核とした産業の育成」に「江別ブランドの創出」があり、江別ブランドが1次産品を意味しているということが分かる。一方、P. 14 のまちづくり政策の「観光による産業の振興」に「江別ブランドの確立」があり、「都市型農業の推進」には江別ブランドの記述が出てこない。どのように理解すればよいか。	未来戦略の「江別ブランドの創出」の「農業を核とした産業の育成」で作り上げたものを、まちづくり政策の「観光による産業の振興」の中で活かしていきたいと考えている。また、農業に限らず、広い意味で観光の面でも江別ブランドを活用できると考えているので「観光による産業の振興」の中で江別ブランドの意味合いを広く取りたい。
P. 14	「産業」の部分で「観光による産業の振興」という項目が新たに加えられているが、「就業環境」の部分で5次総計と比較すると外れている。就業機会の整備については、5次総計の総括で評価が良くなかった部分であるとともに、市民アンケート調査結果でも重要度が高く、満足度が低い結果となっている。「商工業の振興」の一つになった理由はなぜか。	就業環境は、「商工業の振興」の中に位置づけても良いのではないかと考えている。市の施策として打ち出していく強さがあまりなかった部分であるので、「商工業の振興」の中に入れてたところである。
P. 14	・「ふるさと意識の醸成と地域文化の創造」としたのはなぜか。教育は関係ないのか。これは、大人社会のことをイメージしているのか。 ・「教育」の中にも、「ふるさと意識の醸成と地域文化の創造」の部分が入っていると理解したい。大人社会でも「ふるさと意識の醸成と地域文化の創造」が必要だということを明確にしたものと理解したい。	生涯学習の観点には、子どものことも入る。「子育て・教育」の分野は、明確に政策として打ち出したいと考えている。
P. 15	「安全・安心」の「地域防災力の向上」の中に、「防災意識の向上」が入っているが、これは市民の意識の向上であるのか。この度の震災で、津波に一番反応したのが小学校の生徒であったということがある。	ここでは、自治会も含め市民意識の向上や取組を考えている。
P. 15	すでに動いている個別計画との整合性をとらなければならないが、なかなか難しい。自治基本条例は、この総合計画の大前提になるもので、個別計画の欄にはなじまないのでは。また、地域防災計画は、「消防・救急の充実」にも関わるものではないか。	すでに動いている個別計画は、見直し時期に総合計画に合わせてもらおう。逆に、すでに動いている個別計画の内容をこの新総合計画に反映して記載することもある。自治基本条例は、参考としてここに記載してある。また、地域防災計画は、「消防・救急の充実」にも関わるので再掲する。

P. 15	「子育て・教育」の「子どもの教育の充実」の部分について、10年後の年少人口の減少を考慮して学校の統合問題まで踏み込むのであろうか。	「教育環境の充実」を素案の中で文章化していくので、学校の適正規模化を含めて検討したい。
その他	除排雪については、第1回審議会では戦略に入れていないと聞いた。今年、大雪で江別が全国ニュースで放映され、イメージが悪くなったと思う。どこかに盛り込んでもらいたい。	(まちづくり政策で検討)
その他	個別計画では担当の部分にしか力が入らないため、農業の推進であれば食育の授業に結び付いたり、公園の整備や開かれた学校づくりがコミュニティの形成に結びついたりするなど、一つひとつの政策目標とそこから副次的に生み出される効果、タテとヨコに繋げていけるようなことを総合計画の中で基本に据えてはどうか。	(事務局で検討)